

「教育勅語」暗唱を「反省」

「教育勅語」暗唱を幼稚園児に強要する異常な教育で批判を浴びた学校法人「森友学園」。このほど新理事長に就任した籠池町浪(ちなみ)氏が、籠池泰典前理事長の教育理念を「反省」し、見直すと文書で表明しました。

町浪氏は泰典氏の長女で、同学園が経営する塚本幼稚園の教頭や同学園が開設を予定していた小学校の「開校準備室長」を務めてきた人物です。

「森友」新理事長が表明

町浪氏の声明文は、従来の同幼稚園の教育が「国粹主義」などと批判され「社会問題化」したのは、改悪教育基本法(2006年)に盛り込まれた「わが国と郷土を愛する態度を養う」などの教育目標を生かそうとした「前理事長なりの努力と工夫の結果」だったとしています。

その上で、前理事長の

教育理念と指導法を「批判的に総括」し、「なによりも生命と人権の尊重を基本とし」「過度の知育偏重とならない、特定の思想信条に拘束されない」ほか、健康で幸福な生活のために必要な習慣を養うなど「幼稚園教育要領」が示す幼稚園教育の原点に立ち返るべきだとの結論に達したと説明。「個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成」など19

47年の旧教育基本法の指針に基づき、教育内容を見直すとしています。さらに、法曹界や教育専門家で構成する外部検証委員会を設け、「常に自分たちの行為を批判的に検証していく」としています。

同学園の教育を実践してきた当事者による今回の表明は、第1次安倍晋三内閣による改悪教育基本法に迎合する「愛国教育」の破綻ぶりを示すものにほかなりません。

(信)

安倍流「愛国教育」の破綻